

一般財団法人 印刷図書館 2024年度 事業計画書

自 2024年4月 1日

至 2025年3月31日

概況

2023年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことで、「With コロナ」から「After コロナ」へと経済活動は緩やかな回復基調を取り戻しました。しかし回復傾向にありながらも、止まらない原燃料価格の高騰、人手不足、物流の2024年問題など、産業界全体で大きな課題を抱えているのが現状です。印刷業界においても例外ではなく、依然として厳しい経営環境にありますが、社会の発展を支える、信頼される産業であり続けるために新たな価値創出に努めています。

印刷図書館におきましても1947年(昭和22年)に設立されてから今日まで、印刷産業の発展向上を目指す「知」の学び場として活動を続けています。

2024年度におきましても印刷業界における唯一の専門図書館としてその役割を強く認識し、整備充実に努め、日本印刷産業連合会や外部関連機関との連携強化を継続し、図書館の活性化を図ってまいります。

事業計画

I. 図書館基本事業

(1) 図書館運営事業

- ・ 専門図書館としての一般公開及びサービス
- ・ 図書・資料の収集、整理
- ・ 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- ・ 関連機関との相互協力

(2) 広報活動事業

- ・ 受入れ資料のデータベース化
- ・ インターネットへの蔵書データの更新作業
- ・ ホームページを通しての新刊情報の紹介
- ・ ホームページを通しての財団活動報告

(3) その他の事業

- ・所蔵する印刷文化財の貸出等

II. 重点テーマ

1. 資料保存ならびに保存環境改善のためのカビ被害資料のクリーニング

2022年度3月、書庫にて一部資料にカビ被害が発生したことから、保存環境の見直しを図り、カビ発生 of 主な要因である湿度対策のため、2023年度は温湿度データロガー（自動温湿度記録計）と除湿機を導入しました。

これにより、7～9月にかけての高湿度期間の図書館内の湿度状態を劇的に改善することができました。時期によって1カ月間常に60%以上と高湿度状態が続いていましたが、除湿機導入後、3ヶ所に設置してある温湿度計の記録には、受付付近の湿度は常に55%を下回っていました。閲覧室中央通路と書庫に関しては、除湿機の設置場所の関係で60%を超える日もありましたが、その多くが数時間～数日のため、月の平均湿度で見ると、60%を下回る結果となりました。

よって、2024年度は、保存環境がある程度改善されたことにより、次の段階として専門業者によるカビ被害資料のクリーニング、およびIPMメンテナンス（総合的有害生物管理）を順次実施していきます。

クリーニング実施後は、資料ならびに保存環境の管理維持に必要な機器を導入し、活用していきます。

2. 図書館のPR活動の強化

2023年度の利用者数は2月現在、2020年度のコロナ禍と同程度の水準であり、維持会員数は現状維持を続けているものの、100社を切っており、維持会費口数も減少し続けています。

そのため来館者数増加を目指し、より多くの方に関心を持ってもらうため、積極的な広報活動をしていく必要があります。

今年度は潜在的な利用者となりうる芸大・美大の学生や他関連施設の利用者・研究者に向けてリーフレットの配布など、アプローチを積極的にしていきます。

他にも広報用として立ち上げたブログ『印刷図書館だより』を活用した情報発信、印刷業界に向けての広報として日本印刷産業連合会や会員10団体、および関連団体等が主催する研修会・セミナー参加者に対し印刷図書館のリーフレットの配布・紹介のお願い、全国カタログ展の受賞作品の期間限定展示など、PR活動の強化を続けてまいります。

3. 図書館と関連機関との連携強化

印刷図書館への関心・利用度を高めるために、日本印刷産業連合会および10団体、その他関連団体等のネットワークの提携・協力関係を構築し、図書館活動の活性化につなげていきます。

2024年度におきましても、印刷図書館と「印刷博物館」とで、「印刷関連専門図書館交流会」を開催し、テーマを決めての勉強会・情報交換や関連機関への見学会などを計画し、実施していきます。

以 上